

平成31年度

広島大学入学試験 一般入試（後期日程）

教育学部

第五類（人間形成基礎系） 教育学系・心理学系コース

小論文問題

実施期日 : 平成31年 3月12日(火)

試験時間 : 9時00分 ~ 11時00分 (2時間00分)

注意事項

1. 試験開始の指示があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題冊子は表紙を含めて9枚、解答用紙は6枚、下書き用紙は6枚です。
3. 解答用紙の所定欄に受験番号を記入してください。
4. 解答は解答用紙の指定の場所に記入してください。
5. 解答用紙は室外へ持ち出してはいませんが、問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ってください。
6. 机には、本学受験票、大学入試センター試験受験票、配付した問題冊子等、鉛筆（和歌・格言等が印刷されているものは不可）、シャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り（電動式・大型のもの・ナイフ類を除く）、定規、コンパス、時計（辞書、電卓、端末等の機能があるもの、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー及び大型のものを除く）、眼鏡、ハンカチ、ティッシュペーパー（袋又は箱から中身だけ取り出したもの）、目薬のほかは置くことはできません。

平成31年度 広島大学入学試験 一般入試（後期日程）
教育学部
第五類（人間形成基礎系） 教育学系・心理学系コース
小論文問題

問題 I 次の文章は、筆者が宴会を例に挙げながら社会のあり方について論じたものである。この文章を読み、あとの設問に答えよ。

著作権保護の観点から、公開していません。

著作権保護の観点から、公開していません。

（出典：小熊英三『社会を変えるには』講談社，2012年，445-450頁。なお，出題にあたり表記等を一部変更している。）

注) エンパワーメント：人が直面している問題について，それを自分自身で解決する力を獲得できるようにするため，他の者が支援すること。

プラトン：古代ギリシャの哲学者。

設問1 下線部①「幹事が決めるからいけない。バイキングにして自由選択させよう」とあるが，このような表現によって筆者は社会における決定のあり方に関して，どのようなことを示そうとしているか。200字以内で説明せよ。

平成31年度 広島大学入学試験 一般入試 (後期日程)
教 育 学 部
第五類 (人間形成基礎系) 教育学系・心理学系コース
小論文問題

- 設問2 下線部②「関係が充実していれば権力は少なくて済みます」とあるが、これはどのようなことを示そうとしているか。具体的な例を用いて200字以内で説明せよ。
- 設問3 この文章で筆者が主張している社会のあり方について、あなた自身の考えを500字以内で論ぜよ。

平成31年度 広島大学入学試験 一般入試 (後期日程)
教 育 学 部
第五類 (人間形成基礎系) 教育学系・心理学系コース
小論文問題

問題Ⅱ 以下のページに示す図のうち、図1、2および4は、明治安田生活福祉研究所による20～40代の男女を対象とした「20～40代の出産と子育て—第9回結婚・出産に関する調査より—」(2016年)の調査結果の一部をもとに作成したものである。また、図3は厚生労働省による「第14回21世紀成年者縦断調査」(2016年)の調査結果の一部をもとに作成したものである。

図1は、20代と30代の既婚男女が理想とする子どもの数を示している。

図2は、20代と30代の既婚男女が実際に持てると思う子どもの数を示している。

図3は、夫が休日の家事・育児に費やした時間の長さ、新たに子どもが生まれたかどうかの関係を示している。

図4は、夫の家事と育児への参加のために必要なことを尋ねた結果を示している。

これらの図をもとに、以下の設問に答えよ。

設問1 図1と図2から読み取れることを200字以内で述べよ。

設問2 図3から読み取れることを200字以内で述べよ。

設問3 図1～4をふまえ、出産と育児について、あなた自身の考えを400字以内で述べよ。

出典

図1・2・4は明治安田生活福祉研究所「20～40代の出産と子育て—第9回結婚・出産に関する調査より—」(2016年)

<https://www.myilw.co.jp/research/report/2016_03.php> (平成30年12月5日確認)に基づいて作成。

図3は厚生労働省「第14回21世紀成年者縦断調査」<<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/28-9.html>> (平成30年12月5日確認)に基づいて作成。

著作権保護の観点から、公開していません。

図1 理想とする子どもの数

注：調査対象者は全国の20歳以上49歳以下の男女3,595名であり、調査時期は2016年3月であった。この図はそのうち20・30代の既婚男女の回答を集計した結果である。

著作権保護の観点から、公開していません。

図2 実際に持てると思う子どもの数

注：調査対象者は全国の20歳以上49歳以下の男女3,595名であり、調査時期は2016年3月であった。この図はそのうち20・30代の既婚男女の回答を集計した結果である。

著作権保護の観点から、公開していません。

図3 夫の休日の家事・育児時間の長さごとに算出した第2子以降が新たに生まれた夫妻の割合

注：第1回の調査は2002年10月末に、20～34歳であった全国の男女12,709人を対象に実施された。それ以降、毎年同じ人を対象に調査が実施されており、第14回調査は2015年11月に実施された。対象者は、第1回調査で子どもが一人以上おり、夫と妻ともに「子どもが欲しい」と回答していた夫妻である。出生の有無は、第1回調査後から第14回調査実施までの間に新たに子どもが生まれたかどうかを示している。「出生あり」における家事・育児時間は、新たな子どもが生まれる前の調査時の回答であり、「出生なし」の家事・育児時間は第14回調査時の回答である。

平成31年度 広島大学入学試験 一般入試 (後期日程)
教 育 学 部
第五類 (人間形成基礎系) 教育学系・心理学系コース
小論文問題

著作権保護の観点から、公開していません。

図4 夫の家事と育児への参加のために必要なこと

注1：調査対象者は、図1・2の注に示した対象者のうち、子どもがいる20～40代既婚の男女であった。回答は複数回答も可能であった。

注2：フレックスタイム制は、労働者自身が始業および終業の時刻などを決めることができる制度である。